

## 志ほあみ地蔵尊例祭のご案内

境内東側道路に奉安されている「子育て・延命の志ほあみ地蔵尊」、ご参詣の折にお手を合わせいただいたことのある檀信徒の方もいらっしゃると存じます。本年は例祭を3月20日木曜日・祝日に開催することとなりました。お誘いあわせの上、是非お出かけください。

### 「志ほあみ地蔵尊」について



志ほあみ地蔵尊は、龍原寺が八丁堀に創建された（元和7（1621）年）頃、そこで潮を浴びていたことから「しほあみ」の名がついたとされる地蔵尊です。寛文5年（1665年）の龍原寺の三田への移転の際、共にこの地に引っ越してきました。以前は境内に安置されておりましたが、昭和28年に道路に面した場所に遷座（移設）したため、現在では子育て・延命の地蔵として近隣の方にお参りいただいております。

地蔵尊のお祭りは、昔から町内の方により組織された「地蔵講」により運営されています。

#### ✿ 特別企画 ✿

「花びらで仏さまの絵をかこう！」

3月20日（木曜日・祝）11時頃より完成するまで作成

展示期間：3月20日（木）から23日（日）まで

（天候によって変更の可能性あり）

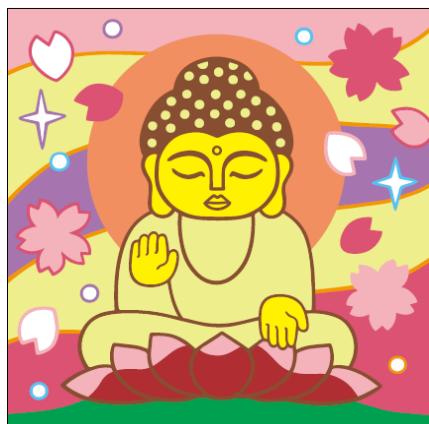
※内容のご説明は次ページをご覧ください。

下絵の上に花びらを置いてゆき「花絵」を完成させたいと思います。「フラワーカーペット」という言葉はお聞きになったことがあるかもしれません、イタリア語でいうと「インフィオラータ」と呼ぶそうです。(このページにある絵が今回の下絵となります。今回は花絵の部分だけで2メートル四方で作製します。)

### インフィオラータの起源

インフィオラータは「コルpus・ドミニ(キリストの聖体の祝日)」のお祭りとして、イタリアやスペイン等、ヨーロッパを中心に世界各国で行われている有名なフラワーフェスティバルです。

その起源は13世紀にまで遡ります。イタリア全土で行われる「コルpus・ドミニ」の行列では、元々花を道に撒く習慣がありました。1625年、サンピエトロ寺院の中で、モザイク風の花のデコレーションをしたことがきっかけとなり、現在のようなデザインが主流となりました。(株式会社インフィオラータ・アソシエイツ様のHPより一部抜粋)



ご法事の際にも、読経の序盤に花の形をしたものをまいて仏様を供養します。これは「散華」と呼ばれ、昔は生の花びらを用いていたのですが、現在では紙等で模したものをまくことがほとんどとなっています。花の匂いは「悪い霊たち」が嫌いなため、それを撒くことで悪い霊を退散させて、その場所を安全・清浄(仏教では「しょうじょう」と読みます)な場所にしてから、阿弥陀様やご先祖様をお迎えして法要を進めていく、と言われております。

龍原寺のご法事でも普段は便宜上紙製の散華をまいておりますが、お彼岸のこの時期、皆様と力を合わせて生花で仏様の絵を完成させ、阿弥陀様とご先祖様へのご供養をしたいと思っております。

### ＜花の行方が心配…という心優しい皆様へ＞

※花びらや茎は回収され、再生パルプと一緒に紙として再生されます。今回の企画の担当下さっている株式会社インフィオラータ・アソシエイツ様ではその紙でスケッチブックを作製。東京都を通して特別支援学級などにお配りし、子供たちが絵を描き、その中から何枚かがまた次のデザインとなり花絵が作成されるそうです。